

第16回 沖縄 平和の旅

2016年9月5日

日キ教組連執行委員長 岩永崇史

日キ教組連靖国委員長 西浦昭英

宜野湾市のだ真ん中にある普天間飛行場は、絶えず事故の危険性と爆音にみまわれています。戦後、民有地を強圧的に奪い取られて建設された基地は老朽化が進み、米軍は新たな基地の提供を日本政府に(日本国民の税金で!)を求めています。自民党政府は、基地の整理縮小を望む沖縄県民の願いを逆手にとり、普天間飛行場の名護市東海岸の辺野古(へノコ)への移転を強引に進めようとしています。かつての市民投票では、新たな基地建設にNOを表明したにも関わらず、岸本名護市長(当時)は、名護市周辺の地域に10年間で1000億円の振興基金と引き換えに、政府と手を結んでしまいました。県外移設を公約に当選した仲井眞知事は、政府の圧力に屈し、基地建設を認めました。一昨年1月の名護市長選挙では基地反対派の市長が当選し、11月の県知事選挙では基地反対派の翁長が、12月の衆議院選挙では、沖縄の4選挙区全てで反対派の議員が当選、今年7月の参議院選挙でも基地反対派が勝ちました。菅官房長官は、抑止力効果としての沖縄の基地の優位性と言っていますが、米軍高官は、沖縄にこだわる強い理由はないと言っています。人を助ける海上保安庁の職員は、辺野古の海のカヌーの一般市民を、暴力で排除しています。

日キ教組連として、第16回目の「沖縄 平和の旅」を企画しました。ご参加ください。

[1]案内・講演をお願いする方 (予定・交渉中を含む)

●謝花悦子さん

伊江島の平和運動のリーダーである阿波根昌鴻さんと共に行動をされてきた。阿波根さんの思想と実践は、岩波新書の『米軍と農民』と『命こそ宝』にも紹介されている。

●前泊博盛さん

琉球新報社論説委員長を経て、沖縄国際大学経済学部教授。『日米安保Q&A「普天間問題」を考えるために』(岩波ブックレット2010)など著書多数。テレビのニュース解説などにも多数出演されている。

●佐喜眞道夫さん

普天間基地の一部を取り戻して建設され1994年に開館した佐喜眞美術館の館長。丸木位里・俊夫妻による「沖縄戦の図」の常設展示のほか、企画展や演奏会の開催もしている。

●新基地辺野古で抵抗運動をしている方々、オスプレイの基地の建設に抵抗している方々、米軍戦闘機が墜落した宮森小学校の関係者、普天間基地の撤去の運動をされている方々、ハンセン病元患者の案内や講演も伺います。ほぼ全日、平和学習のためのガイドをされている方に案内をお願いします。

[2]日程 12月26日～30日 (スケジュール・講師は都合により変更になる事があります)

[3]費用 9万円～10万円 人数および出発場所により違います。

[4]締め切り 11月下旬 定員(22人)になりしだい締め切ります

[5]申し込み方法 郵便かFAX、またはメールで連絡を下さい。 BXL06045@nifty.com

〒179-0072 練馬区光が丘 3-8-6-301 西浦昭英 TEL.ファックス 03(5904)5077